

E. 結論

HCV JFH-1 は HCV のウイルスバリデーションに有効であり、これまで行われて来たモデルウイルス BVDV を用いたウイルスバリデーションと結果は矛盾しないものであった。25%エタノール分画後でも、JFH-1 の感染性は残存する。凝固因子製剤、グロブリン製剤、アルブミン製剤等すべての製剤について、ウイルス不活化工程は非常に重要である。

G. 研究発表

(ア) 論文発表 なし

(イ) 学会発表：

・ Evaluation of Hepatitis C Virus JFH-1 Infectivity and RNA Distribution During

Plasma Fractionation. Kiyoko Nojima, Takashi Shimoike, Takaji Wakita, Isao Hamaguchi, and Yoshiaki Okada. 2014 AABB (アメリカ輸血学会) 2014年10月 フィラデルフィア

・ 血液製剤におけるC型肝炎ウイルスの不活化機構の解明 下池貴志、野島清子、脇田隆宇、岡田義昭 第61回日本ウイルス学会 2014年11月 横浜

H. 知的所有権の取得状況

1. 特許申請：なし

2. 実用新案登録：なし

3. その他：なし

図1. クリオ/脱クリオ分画

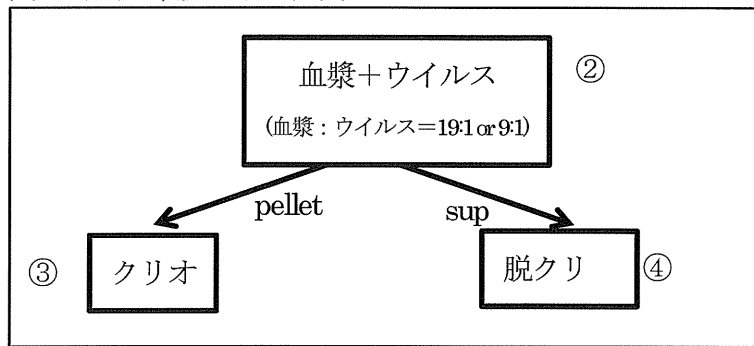


図2. Fra. I /SI分画

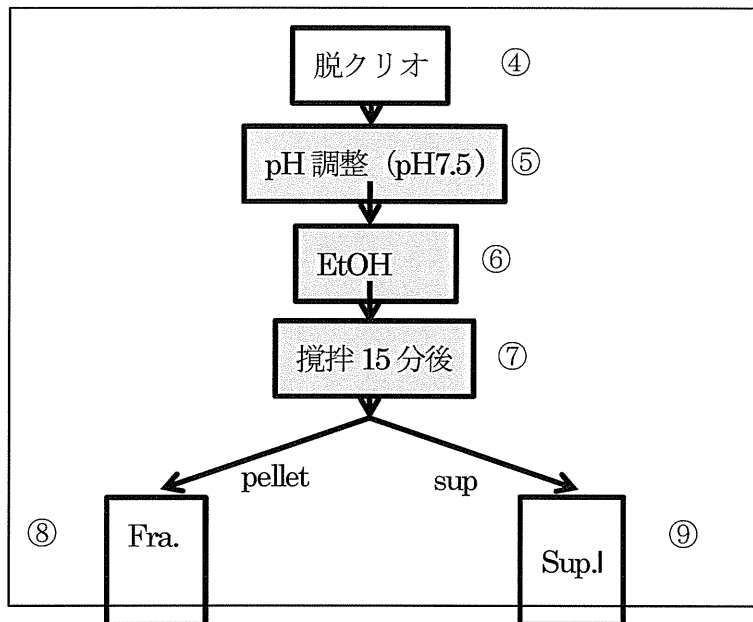


図3. Fra II+III/SII+III分画

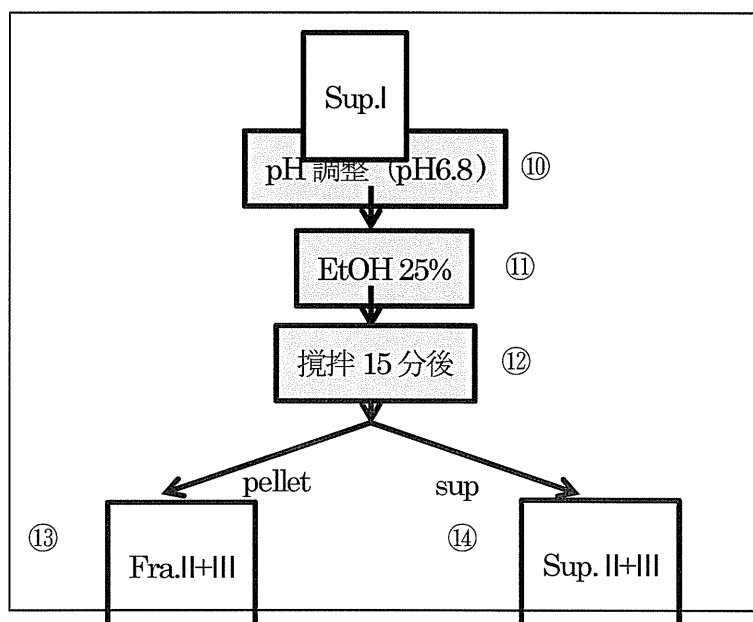
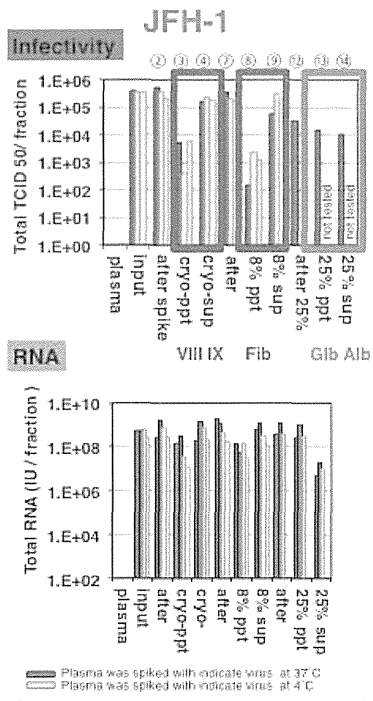


図4 JFH-1am の RNA と感染性の分配



III.研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年

